

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：32630

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K03857

研究課題名(和文)近代中国における銀行家の誕生と経済制度転換：宣教・高等商業教育との関連から

研究課題名(英文) Bankers, Missionaries and Collegiate Business Education in Modern China

研究代表者

林 幸司 (HAYASHI, Koji)

成城大学・経済学部・教授

研究者番号：30612775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：1920-30年代の中国では、綿紡織業等の近代産業が相継いで設立され、機械制製造業の一大中心地へと発展していく。そしてこれら新興産業の資金需要を満たすべく、近代的銀行による産業金融が発展し、有価証券を取り扱う証券取引所が整備され、不動産売買を基軸とする金融市場が成立していった。このように、中国経済は、西欧を発端とする様々な経済制度を受け入れながら、世界経済へと接合されていく。本研究は、近代中国における銀行家の誕生と経済制度の転換過程を、銀行業界・宣教ミッション・高等商業教育の相互作用の視点から検討することを目的とする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義および社会的意義は以下の通りである。

まず、アメリカ系宣教ミッションと高等商業教育を手がかりとして、近代中国の銀行家がアメリカの影響を受けながら誕生した過程を明らかにする。また、これらの人材養成を、都市部から内陸部へと至る銀行業界の発展過程とアメリカの経済進出との両面から結びつけることで、欧米に端を発する高等商業教育が、中国の内部から伝統的商慣行を変容させていく過程を実証的に解明する。

以上で明らかとなる歴史像は、外的要因が内部に取り込まれ独自の中国的秩序を形成するにいたる過程、ひいては現代中国の経済成長へとつながるダイナミズムを理解するという、今日的意義を兼ね備えるものである。

研究成果の概要(英文)：The 1920s and 1930s were a golden age of economic development for China. Modern industries such as cotton textiles were established in coastal cities centering on Shanghai, which developed into a major hub of manufacturing. To meet the funding requirements of these emerging industries, industrial finance was developed by modern banks, a stock exchange dealing in securities was founded and a financial market based on real estate transactions was created. In this way, the Chinese economy gradually joined the global economy, while adopting various economic systems from Western Europe.

How were the people who took on the role of connecting China to the world educated? What kind of relationships can be found in the background? In this research project, I argue that the key point to consider is the relationships between "Bankers", christian missions and higher commercial education in China.

研究分野：東洋経済史

キーワード：高等商業教育 宣教ミッション 銀行家 経済制度

1. 研究開始当初の背景

19世紀後半以降、アジアでは欧米諸国を中心とする帝国主義体制のもと、これを裏付ける様々な仕組み(教育・経済制度など)が、英米系プロテスタント宣教ミッションとともに広がりを見せていた。同時期、中国の伝統的金融機関の拠点であった上海では、1910年代以降、新しい金融業—近代株式銀行が、大きな成長をとげた。銭荘など伝統的金融機関は、日本の合名会社に近い「合股」による資本結合・業種別の「幫」と呼ばれるギルド組織・蘇州嗎字による記帳など、独特の形態を持っていた。これが銀行へと転換していく際には、複式簿記や会計制度、株式会社制度、債券発行や証券取引など、新たな知識とノウハウが必要となる。イギリスに遅れて中国へと進出したアメリカは、宣教ミッションによる大学の設立などを通してこれらの人材育成に取り組み、その結果、アメリカ高等商業教育を背景として養成された人材が、中国人「銀行家(banker)」として活躍することとなった。本研究は、近代中国における経済制度の変容過程を、銀行業界・宣教ミッション・高等商業教育の相互作用の視点から検討していく。

2. 研究の目的

本研究の中心テーマである、近代のビジネススクールと高等商業教育の展開については、マーシャル等による先駆的研究 [引用文献 1] が、日本については西沢保 [引用文献 2] をはじめ多くの研究がある。中国については、商業教育の立場から分析した常国良の研究 [引用文献 3] や、中間層形成との関連を論じた岩間一弘の研究 [引用文献 4]、経済学の中国への伝播について論じたトレスコットの研究 [引用文献 5] がある。1920~30年代の銀行業については、銀行と信用の問題について論じたシーハンの研究や [引用文献 6]、研究代表者を含めた個別銀行史など多く研究がなされている。また、近年アジアにおける欧米の国際銀行に関する研究が進んでいる [引用文献 7]。他方、欧米の商業活動と宣教ミッションの関係については、帝国論の枠組みから盛んに議論がなされている [引用文献 8]。ただし、本研究の問題意識のような、中国における銀行家養成とアメリカ高等商業教育を宣教ミッションの活動と結びつける研究は、未だなされていない。

本研究は、こうした研究状況を踏まえ、以下のような研究を進めることを目的とする。

(1)まず、上海およびその他諸都市のアメリカ系宣教ミッションと高等商業教育を手がかりとして、近代中国における銀行家がアメリカの影響を受けながら誕生した過程を明らかにする。

(2)高等商業教育を通じた人材養成を、都市部から内陸部へと至る銀行業界の発展過程とアメリカの経済進出との両面から結びつけることで、欧米に端を発する高等商業教育が、中国の内部から伝統的商慣行を変容させていく過程を、実証的に解明する。

(3)以上のような検討により、近代中国が世界経済へと接合される際に、経済制度や商慣行にどのような変動が生じたかという問題が、具体的に明らかとなる。こうした結果は、外的要因が内部に取り込まれ独自の中国的秩序を形成するにいたる過程、ひいては現代中国の経済成長へとつながるダイナミズムを理解するという、今日的意義を兼ね備えるものである。

3. 研究の方法

本研究では、以下の三つのテーマを設定する。

(1)銭荘など伝統的金融機関の拠点であった上海は、欧米の進出とともに、近代株式銀行が発展する場となった。その背景には、アメリカ系宣教ミッションがすすめていた大学設立とその高等商業教育、そしてこれを経て誕生した銀行家の存在があった。その結果、中国における銀行家は、当時の世界金融の中心であったイギリスではなく、アメリカの影響を強く受けることとなったのである。まず本研究では、アメリカ系宣教ミッションと高等商業教育との関連に焦点を当て、宣教ミッションが上海など各地で設立した複数の大学におけるカリキュラムとその卒業生の進路に注目し、経済制度の転換と「銀行家」養成の過程について具体的に検討する。

(2)上海を含めた上記大学を経て誕生した銀行家は、新旧双方の制度を理解するキーパーソンとして、債券市場や手形交換所など、内陸部諸都市における近代的市場形成にも寄与していった。本研究では、内陸部経済の拠点都市重慶を事例として、銀行家が地方の市場メカニズム構築に与えた影響を具体的に明らかにする。それと同時に本研究では、これらの動きと軌を一にするアメリカの宣教ミッションと経済進出に注目し、中国人銀行家の活動とアメリカの関係についても検討する。

(3)上記は中国国内の状況であるが、同時に中国の銀行家の中には、アメリカ系宣教ミッションとの関係を通じてアメリカに留学・渡航し、その人脈を生かしつつ、既存の中国人移民社会と関係を構築していく者も現れた。そしてこれらの人材から、のちに国民政府財政部長を務めた宋子文のように、政府の経済政策立案の中枢に加わる人物が出現し、やがて彼らは政権において親米派閥を形成していく。本研究では、近代中国における銀行家が国際的にビジネスを展開する上でどのように人脈を形成し、それが中国国内の経済制度構築にいかなる影響をもたらしたの

かについて、経済人脈形成と中米関係の視点から検討する。

4. 研究成果

本研究における研究成果および今後の課題は、以下の通りである。

上記研究テーマの(1)について、近代中国において誕生したビジネススクールの設立過程およびその教育内容を、19世紀末に上海で設立され、当時最も著名であったアメリカ系高等教育機関である St. John's University, Shanghai(上海聖約翰大学)と、アメリカ聖公会国内外宣教協会(The Domestic and Foreign Missionary Society of the Episcopal Church of the United States)の関係に注目した。まず、中国におけるビジネススクールの誕生と背景について、代表者がこれまで行ってきた中国上海市檔案館・アメリカ聖公会アーカイヴ(The Archives of the Episcopal Church)・フーヴァー・インスティテューション・アーカイヴ(Hoover Institution Archive)における資料調査と、ウィスコンシン歴史文書館(Wisconsin Historical Society Archive)における資料調査の成果に基づいて、中米両面の視点から検討した。これらの検討により明らかになったのは以下の諸点である。

近代中国におけるアメリカ系ビジネススクールが、米国の宣教ミッションや政財界のニーズと緊密な関係をもちながら形成されていたこと。

カリキュラム編成などが米国を中心に世界同時に普及していた高等商業教育の流れに沿った「雇われ経営者」養成に基づくものであり、いわゆる「実業教育」とは一線を画するものであったこと。

そしてそれが中国人の富裕層の高等教育に関わるニーズと合致したものであったこと。

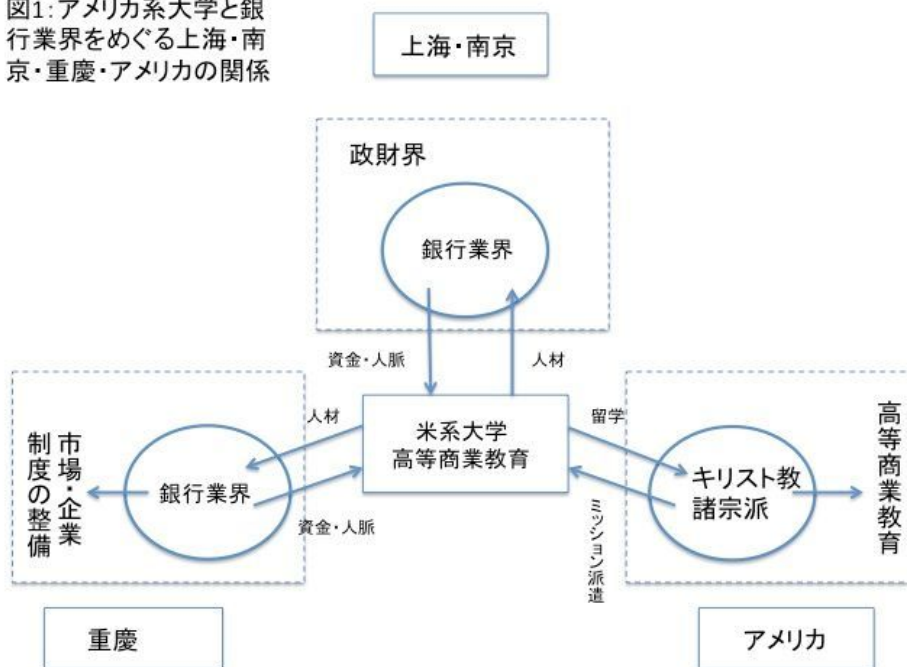
以上の諸点は、近年盛んに議論されている宗教的営為とビジネス展開という帝国論の文脈[引用文献5]が、中国にどのような社会経済的影響をもたらしたのか、という問題を考える上でも、突破点となり得る成果である。

これら研究成果の集大成として、宣教ミッションと高等商業教育の関係を扱った査読付き学術論文(「1920年代、上海における宣教ミッションと高等商業教育-上海セント・ジョン大学の事例から」)が国内学術雑誌に掲載された。

上記研究テーマの(2)について、内陸部の拠点都市重慶の事例を中心に、債券市場や手形交換所、そしてこれらと経済団体の関わりなどの問題の検討をすすめた。これら研究成果については、近代中国の民間銀行の史的展開を扱った中国語単著(『近代中国民間銀行的誕生』)を出版するとともに、国際学会での報告、複数の学術論文などの形で、広く公表した。

以上の分析によって明らかになった内容を図示したのが、図1である。

図1:アメリカ系大学と銀行業界をめぐる上海・南京・重慶・アメリカの関係



他方、上記研究テーマの(3)については、十分な検討ができなかった。今後、本研究で明らかになった成果をもとに、これらのテーマについて研究をすすめることが、課題として残されている。

< 引用文献 >

- [1] L.C. Marshall eds. *The Collegiate School of Business: Its Status at the Close of the First Quarter of the Twentieth Century*. The University of Chicago Press, 1928.
- [2] Khurana, Rakesh. *From Higher Aims to Hired Hands, The Social Transformation of American Business Schools and the Unfulfilled Promise of Management as a Profession*. Princeton University Press, 2007.
- [3] 西澤保「福田徳三・上田貞次郎と東京商科大学の形成」同『マーシャルと歴史学派の経済思想』岩波書店、2007年
- [4] 常国良『近代上海商業教育研究』黒龍江大学出版社、2008年
- [5] 岩間一弘『上海近代のホワイトカラー-揺れる新中間層の形成』研文出版、2011年
- [6] Trescott, Paul B. *Jing-ji Xue: The History of the Introduction of Western Economic Ideas into China, 1850-1950*. The Chinese University of Hong Kong, 2007.
- [7] Sheehan, Brett. *Trust in Troubled Time: Money, Banks and State-Society Relations in Republican Tianjin*. Harvard University Press, 2003.
- [8] 西村閑也・鈴木俊夫・赤川元章編著『国際銀行とアジア 1870-1913』慶応義塾大学出版会、2014年)
- [9] Andrew Porter. *Religion Versus Empire? British Protestant Missionaries and Overseas Expansion, 1700-1914*. Manchester University Press, 2004.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 林 幸司	4. 巻 245
2. 論文標題 1920年代、上海における宣教ミッションと高等商業教育－上海セントジョン大学の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 林 幸司	4. 巻 227
2. 論文標題 近代中国経済史研究とアメリカ聖公会アーカイヴ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城大学経済研究	6. 最初と最後の頁 91-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 HAYASHI Koji	4. 巻 222
2. 論文標題 From "Guild" to "Chamber of Commerce": Bankers and Commercial Associations in 1950s Chongqing	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Seijo University Economic Papers	6. 最初と最後の頁 145-167
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 林 幸司	4. 巻 218
2. 論文標題 近代中国における経済制度の再検討：重慶における手形交換を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 成城大学経済研究	6. 最初と最後の頁 493 - 515
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 林 幸司	4. 巻 230
2. 論文標題 1930年代重慶における新興企業の設立－経済官僚の出現と銀行業界の関連から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 成城大学経済研究	6. 最初と最後の頁 187-211
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 HAYASHI Koji
2. 発表標題 From "Guild" to "Chamber of Commerce": Bankers and Commercial Associations in 1950s Chongqing
3. 学会等名 World Economic History Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 林幸司	4. 発行年 2019年
2. 出版社 社会科学文献出版社	5. 総ページ数 317
3. 書名 近代中国民間銀行的誕生	

1. 著者名 林 幸司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 成城大学経済研究所	5. 総ページ数 31
3. 書名 日中戦争下の銀行業 抗戦首都重慶における経済制度変容の視点から	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap
https://researchmap.jp/hayashi_xs
リサーチマップ
https://researchmap.jp/hayashi_xs

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------